

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣の利用者が多いため、家族以外の友人、知人等の面会者にもいつでも来所していただいている。また、なじみの場所への散歩や花見、なし狩り、地域の祭りへの参加や幼稚園の訪問などの交流により、今まで生活してきた場や人に触れあう事ができ、安心や行動の落ち着きに繋がっていると思う。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共にいかに利用者に対し質の良い介護サービスの提供が出来るかという事に日々心を傾けている。入所者が人間らしい尊厳を保ち、心地よい日々が送れるよう知識を得て、実践に向け努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域へ当ホームの趣旨や内容をアピールする機会が少ないが、見学者があった場合にはいつでも快くホーム内を案内し利用案内をさし上げたり、趣旨や内容を説明して理解を深めて戴ける様にしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	推進会議のメンバーを近隣者に依頼したことで、散歩や庭の草花の手入れ、買物の際など気軽に声を掛けて戴ける様になった。また、折々花を届けてくれる方もおり、関わりが深まったと思う。また、メンバーを通じて徐々に他の方々にも当ホームの事を知ってもらえてきている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に声を掛けて頂いた場合には積極的に参加している。利用者の健康状態が良ければ更に機会を増やしたい。また、日常の散歩の際にも声を掛けて頂いているので、地域の一員としてできる限り交流の機会を持てるよう努力していきたい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者を抱えた家族が相談に見えた場合や利用申込みに見えた場合は、知識や介護技術など家庭の状況に合った方法のアドバイスをを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価と自己評価の結果を対比し、管理者・職員共にそれを踏まえた意見を取りまとめ、更に質の向上を目指している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議において外部評価結果の報告、それに対する取り組み、利用者への介護状況、環境対策、家族との関わり等、あらゆる事案の報告を行い、会議での意見にも速やかに対処し日々の介護に活かすよう努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村等自治体はグループホーム事業の推進にとって重要な存在であるが、今まではあまり接する機会が無かったが運営推進会議等で市から出席していただけることで多方面に渡っての情報を得られたり活動を指導いただきサービスの質の向上に影響を与えることが出来ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に権利擁護に関する知識を得るべくようにしている。当ホームは今のところ成年後見制度の適用者は無いが出た場合には活用できるように努力していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームでは開所以来虐待等ないが、常に入居者の状態に注意を払っている。先ずそのような状況が発生しないように管理者、職員、利用者の風通しの良い環境づくりに力を注いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用希望者の家族にはグループホームの主旨や目的、また当ホームの利用案内を提示し、出来るだけ平易な言葉で説明している。どのような質問にも丁寧に答え、理解・納得していただけるよう努めるとともに、出来るだけ不安を取り除く努力もしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者と職員を隔てることの無いよう良好な雰囲気作りに努め、お茶や食事の時間に利用者からの意見や要望などを聞くように努めている。また、何気ない会話の中からも利用者の心を汲み取れるよう努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の折に利用者の生活状況や健康状態など出来るだけ詳しく報告するとともに、家族からの要望も聞くように努めている。一定期間面会の無い家族には文章で近況報告を行い、日々の様子を知っていただけるよう努めている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰の目にも触れる玄関の上がり口にご意見箱を設置している。家族にも面会の際には必ず改善して欲しいことなどの意見を伺い、その場で出来る限りの解決策を考え、提示する事で安心していただけるよう努めている。しかし、その場での返答が難しい場合には、後日必ず返事を連絡している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全職員が集まり会議を行っている。事業全般に渡っての意見や提案が積極的になされるようにしている。改善点があった場合は速やかに対処し、より良いホーム作りを職員一同で目指している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の体調の変化による介護の変更、職員やその家族に起こる不測の事態にも、勤務する上で通常以上の負担が掛からぬような調整が行えるよう余裕のある勤務体制を整えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する場合は、利用者の関り方に応じた対応をとるよう努めており心が受けるダメージを出来るだけ少なくする様になっている。新しい職員が入った場合にはお互いが1日でも早く慣れ親しめるように触れ合いの時間を持てるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の中には経験の豊富な人もいれば全く初めてという職員も居るので研修に積極的に参加するよう勧めている。又、日々の介護を通じて知識や技術の向上・習得のためにデモストレーションを行っている。マニュアルも作成し活用をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互の研修や受け入れを積極的に行いサービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に食事会の機会を持ちその席での希望や改善して欲しい点を気軽に話してもらえるよう日頃から職員との良好な人間関係作りを心掛けている。又、各自が月3～4回ゆつくり休養が取れる勤務表とし事前に休み希望などを取り入れている。更に、利用者とのストレッチ体操を取り入れたり健康相談を受けたり職員の健康管理にも努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力も認め労わりの言葉も多く掛けるよう心掛けている。職員が学ぶ喜びを持ち質の高いサービスが提供できる自信と誇りが持てるようにしている。ストレスがたまらないよう利用者との人間関係の調整や職員同士が何でも言い合える雰囲気作りもしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者が新しい生活に慣れる様どんな質問にも誠意を持って答えるようにしている。精神的に安定し落ち着いた様子が見えるまでは目配り気配りを心掛けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新しく利用した家族に対しても項目23同様に接しているが家族としては目の届かぬ所にいる訳なので入所者落ち着くまでは頻繁に状況説明するよう努めている。又、家族からの情報が得られよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム本来の目的に添う対象者であるかどうか見極め利用可能な場合はその対象者にどのようなサービスを提供することが出来るか、又、失われつつある能力をどのように引き出すことが出来るかなど一人一人に合った対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には本人と家族と供に来所していただき、目的やサービスを充分説明し納得してから利用してもらっている。しかしながらごく稀に本人があまり希望しないにもかかわらず家族の事情から家族に強く望まれ受け受ける場合もある。その様な場合は度々面会に来てもらいだんだん本人が慣れて安心してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どの利用者も今までの生活を通して趣味や職業を通しての得意分野がありそれを機会ある毎に日常の生活の中で発表してもらったり教えてもらったりしている。そうすることにより自分の存在に自信を持つことが出来安心や落ち着きにも通じている。。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には出来るだけ細かく近況を伝えるようにしている。又、家族の面会毎に情報を得る事が出来るので更に質の高いサービスの提供に役立つよう努めている。等ホームの場合個室での面会もあるが共用のフロアで和気あいあいと面会してる事が多く、他の利用者とも気軽に接しておりそれも心の落ち着きに役立っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	少なくとも原則月1回面会をお願いしている。利用者も面会が多い方が家族との絆が強まり自分の存在確認にもなるらしく家族との関係も良好になる。事情により面会があまり無い家族にはホームから生活状況として文章で近況を知らせるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が近辺の方が多いので美容院・医療施設などはそのまま継続できるようにしている。又、入所前に交流のあった人との手紙のやり取りの支援や面会の機会も持っている。季節によってお花見・紅葉狩り等も利用者の馴染みの場所があれば希望に沿うようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションやお茶の時間は一部を除き自然に気のあったもの同士で並んで和気あいあいとしている。極稀に気持ちの行き違いからトラブルになりそうなときは、さりげなく職員が間に入りその事象から自然と気持ちが遠のくようにしている。今のところ利用者同士の人間関係は良好である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用後状況が変わり軽度となったため退所された方にも来所しての相談、電話での相談にも快く応じ必要な情報の提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活(食事・お茶・風呂等)の会話を注意深く聞く様にし、その中から利用者が何を希望しているかを把握するよう努めている。利用者によっては会話が困難であるため、その様な場合には、自分をその立場に置き控え何を求めるかを考え最善の対処をを提供したいと努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に把握した情報(基本情報)は、全ての職員に共有され一人一人の人間性を尊重し、ホームでの生活が良好なものとなる様努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の一日の暮らしぶりを注意深く観察し生活のリズムを把握できるよう努めている。ある程度の流れがつかめると異常があった場合早期に気づくことが出来る。記録もこまめに行い引き継ぎも徹底し全ての職員が同一の情報を得ることが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が苦痛や不安なくより良い生活が送れるよう本人・家族・管理者・職員は話し合いの機会を持ち、必要に応じて関係機関の医師等の情報や意見交換をし、それに基づいた介護の提供を心掛けている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な話し合いにより介護計画の見直しや必要に応じ随時見直しを行い現状に即した計画であるよう務め介護を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人詳細な記録や、確実な引き継ぎを行い同一の情報共有を徹底している。随時カンファレンスを行い計画の見直し、対応、実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じ十分な職員数、常勤の看護師、関係先の病院・医師等の連携により速やかに様々な要望及び状況の変化に応じられるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎年地域のお祭りなどの参加は積極的に行っている。また、幼稚園からの訪問を受け楽しい一時を過している。日常と違った時間を過ごす事は利用者にとって良い刺激となるらしく生き生きと楽しむ姿が見られる。又、地域の農園での梨やりんご狩り・ひまわり・菊等美しく咲かせている方の畑や庭を見学をさせて頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところホームでの介護支援やサービス提供で十分支援が出来ておりその必要性を感じないが、そういった事案が発生した場合にはその様な支援をしたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同上		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは医療機関との連携体制が整えられており必要に応じ速やかに適切な医療を受けている。又、本人、家族がかかりつけ医師を希望する場合はその様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	3ヶ月に1回定期受診をし必要に応じたアドバイスや投薬を受けている。職員もそれぞれ認知症他、関連の文献を読んだり介護福祉関連の記事には務めて目を通し知識を深め質の高い介護サービスが提供できるよう努力している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2名の看護師が常勤して居るので日常の健康管理は充分に行えていると思う。又、看護師も日々向上している医療の知識及び技術を得るべく努力をし、それが利用者へ反映できるよう務めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した利用者に対してはできる限り頻繁に面会し状態を確認し、主治医やケースワーカー等の関係者とも密に情報交換し、当ホームの介護力など受け入れ状況も伝えて早期退院に向けての連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の介護マニュアルを作成し、できる限り心地よい生活が出来るように努めると共に家族に対しては現状を詳しく伝え協力を得られるようにしている。嘱託医との連携も密にとっている。全職員と介護方針の共有を図り、最後まで質の高い介護を提供できるように努力している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期であっても状態の許す限り他の利用者との交流を図っている。できる限り平穏で落ち着いた環境をづくり努め心地よい日々が過ごせるように、職員・家族・かかりつけ医と共に支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が別の居所へ移り住む場合、先ず本人の心のケアを第一とし不安材料の解消に努め 又、家族との連携を密にしてその事象から受けるダメージが最小限となるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人間性や誇りを傷つけるような声掛けは絶対に行わないよう徹底させている。幸い当ホームは良好な関係が築かれている。利用者の個人情報適切な介護サービスの提供を行うためのものであり外部への持ち出を禁止し第三者の目に触れたり、口外することの無いよう秘守義務を徹底させている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が希望や思いを表出しやすい様に普段から良好な信頼関係が構築できるよう常に努めている。中には遠慮がちな方もいるので気持ちが汲み取れるよう努力している。自己決定に関してはできる限り本人を尊重し行える環境が整えられている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムが把握できているので先ずそれを優先としている。その上で、その日1日を気持ちよく過ごすためにどのような希望があるのか、又、どのような支援がよいかを検討し希望に沿った支援に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれに関しては本人が希望が言える方には職員が適宜希望に沿って支援している。又、手助けが必要な方には常に整った身だしなみであるよう支援している。理容・美容院は行きつけのある方はそこを利用して戴いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて下ごしらえ・配膳・下膳・食後の掃除など和やかなうちに協力し行っている。食事が楽しみなものとなるよう献立にも気を配っている。食事中は会話が途絶えることなく利用者にとって楽しい時間となっているのが伺われる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日々のメニュー作りに利用者の希望は常に聞き入れそれを反映させるように努めている。献立も変化に富むよう工夫し、季節の行事、例えば七夕・お正月・クリスマスなど行事にふさわしく楽しみの持てる献立となるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録をとりスムーズに介助できるよう努めている。また、注意深く見守ることによりサインを見逃さず的確な援助により利用者によっては時間を見計らって声を掛けるようにしている。失敗することがあってもできる限りおむつの使用は避け、自力排泄の支援に努力している。特に夏の猛暑時には肌触りの良い下着を着用し快適に過ごして戴ける様に工夫している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は決まっているが、入浴も食事と同じく楽しみなものとなるよう工夫している。入浴日には温泉ののれんをかけ気分的にも楽しんでもらえている。また、必要に応じ随時、部分浴や清拭・更衣を行い入浴に変わる目的が達成できるようにしている。入浴時に特に注意していることは、お互いに気心が知り合えて話をしながらゆっくり入浴できる環境を	○	個々の利用者の生活習慣や満足感・身体状況考える入浴日や入浴時間等一部改善する必要があると思われ機会ある毎に話し合いを行っているが、即改善するのには困難があり入浴に変わる方法を取り入れている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天候に左右される事もあるものの、買物・散歩・ドライブ・なじみの商店への買物同行等本人の希望を叶えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴により趣味や得意なものを持っており、一人一人が自信を得たり誇りを持てるよう支援している。洗濯、調理、清掃など出来るお手伝いを積極的に行ってもらう事でホームでの役割を得て生活の張りや出来ることの喜びにつながっている。手芸なども積極的に支援し、貼り絵などは見事でホームのカレンダーにしたり幼稚園児にプレゼントしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は力量に応じて管理してもらい本人自ら買物が出来る機会が持てるよう支援している。管理できない利用者の場合には必要な買物を定期的に伺い購入しこの様な時にはレシートを保管し後日家族に提示している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、健康維持にもつながるために、力を入れていることの一つである。希望者には、常に職員が付き添い、安全確認の上行っている。体調不良や健康不調でない限り、希望によって行っている。更に、外出を好む利用者には、買い物に行く等機会をつくっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出はいつでも可能である。買物や受診での外出、他の利用者との行楽・お花見・紅葉狩りなど出来る限り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などは利用者が自分の存在や家族・知人などとの絆を確認することが出来、また心の安定につながるものでもあるため不自由なく行うことが出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者を取り巻く馴染みの方々との面会は本人の体調不良でもない限り、いつでも何の制約も無く可能である。また、遠方からこられる方のためには宿泊の用意も整っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員共に身体拘束をしないなどの禁止行為を正しく理解しており、拘束をしないケアを実践している。むしろ当jホームでは、例えば床についてしまった場合は床ずれをいかに防ぐか、どのような姿勢が楽であるか、そういった苦痛を取り除くことに腐心している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は広義の身体拘束であり地域社会からの孤立を招く事につながるので、日中は施錠せず内外からの出入りは自由にしてある。玄関わきの事務室には常に人がおり、他のフロアーにあって利用から目を離さず無断外出を防ぐような体制が整っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共同生活をしているからこそ心の安定や落ち着きに必要なプライバシーの保護には配慮している。また、常に利用者の所在を確認し、無断外出や不慮の事故等防ぐべく努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個人の物品に関しては力量に応じて管理を任せている。また、ホーム内の共有スペースの物もむやみに撤去するのではなく、見守りにより危険を防ぐということにも力を注いでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、カンファレンス、文献・資料等から知識を得よう努め、利用者一人一人の状態に即した事故防止に活かせるよう管理者・職員共に日々力を注いでいる。更に転倒など事故を起しやすい利用者にはその都度話し合いを行い対策を検討している。些細なことであると思うことでも当事者は「ひやりハット」記載してもらい大事故に繋がらない様になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故発生等に対して速やかに対処できるよう緊急マニュアルを作成し定期的に確認している。緊急連絡も作成し報告漏れの無いようにしている。事故発生時には、落ち着いて対処できるようその方法も具体的に記述して職員に周知させている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行い避難誘導や避難方法を周知徹底し誘導手順を確認している。又、職員の数が手薄となる夜間などの場合はどうしても近隣の人達の協力・手助けが必要となる為、協力が得られるよう推進会議の場で御願ひし協力体制が得られた。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体機能の衰えにより今までの生活が無理になってきた利用者に対しては個々に出来るだけ快適な生活が出来るようにとの目線で対処するようにしている。転落等の危険やサイドレール使用での危険があると思われる場合にはジュータンの上での生活になる場合は事前に家族に事情説明し了解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週2回の体温測定、月1回の体重測定・血圧測定を実施し普段の健康状態を把握することにより異常の早期発見が出来るように努めている。異常時には直ちに看護師に報告し対処できるように努めている。又、全職員が同一の情報を共有できるように個人記録の詳細な記載や生活援助計画の確認を行うと共に引継ぎの徹底を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員サイドで管理し、1回毎に利用者に渡し力量に応じた内服を支援している。薬によっては禁止されている食べものや飲み物があるため一覧表に明示している。副作用などに関しては薬局で渡されるお薬内容の文献に目を通し安全な内服が出来るように配慮している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排泄状況を常に把握している。予防にはバランスの良い食事の提供・水分摂取の確認・リハビリ体操の働きかけなどで良好な排泄習慣が保てるように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人が口腔ケアが出来ない場合には、その状況に応じたケアを毎食後速やかに行い口腔の状態を観察している。自分で出来る人に対しても時々口腔内の確認をさせてもらい、又使用している物品なども清潔に管理されているか確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体調に応じ基本的に決められた目安となる量があるが、天候や体調による変化に応じた水分量の調節や食事形態(きざみ・流動食・粥食等)にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種の実施 又、利用者や職員も普段から含嗽・手洗いを励行し外出後には特に含嗽・手洗いを徹底している。更に、一般フロアから調理室に入る際もスリッパの履き替えや念入りの手洗いを徹底し調理当番の人は排泄介助やおむつ交換は極力控えている。利用者の調理の下ごしらえの協力時には見守りの中で手洗いを職員と一緒に		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	流しを2箇所設置し土つきの野菜などは先ず専用の流し台で洗いその後調理室へ持ち込み再び洗うようにしている。野菜・調理器具・食器類・調理室共に清潔を旨とし布巾・まな板等もキッチンハイターで消毒し洗うようにしている。乾物等の食材は賞味期限の定期的な確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清潔は勿論 花は人の心を和ませると言う視点から一年中花を絶やさず美しさと清潔さを保つよう心掛けている。又、玄関には靴の着脱の際腰を掛けられるよう長椅子も設けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間も先ず心地よさという点で清潔を心掛けている。他に観葉植物の鉢物・季節の花を活けオブジェ等の飾り物も季節ごとに変え楽しんでもらっている。また、利用者が作成した塗り絵・押し花等を飾り喜んでもらっている。車椅子利用者が多くなり廊下や居室・食堂には必要とする最小限の物で自由に安全に移動できるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分に椅子のフロアーその続き間として和室があり、その和室にもソファが設置されており椅子・畳・ソファと其々好みでくつろげるように工夫している。更に、廊下の突き当りには外を眺めながらくつろげる様にテーブルと椅子を準備し利用してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の好みの物の持込を許可しており個人の好みに応じた部屋となっており、心の安定や落ち着きに役立っているものと思われる。利用者によってはしつらいも楽しんでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	普段からホーム全体の清潔さ・良好な居住性という観点から窓の開閉に気を配り空気の流れを良くし、又、ブラインドやカーテン・よしすだれ等の利用により室内への陽ざしの調整もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下共有部分には歩行や車椅子の障害となる物は置かず安全に配慮している。人によっては手摺りを使用し自力歩行の機能を出来るだけ失わない様に配慮している。更に、安全に利用できる人には居室に椅子を置き自由でのんびりとした時間が取れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	其々の利用者は、今まで生活してきた事による能力や得意なものを持っているので、その人の特性を活かし能力を最大に引き出し、且つ失う事のないよう一人一人を良く観察し対処するように心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い敷地と立地を活かし樹木や草花を植え豊かな緑と花を楽しんでもらっている。利用者の中には草取りや水遣りに積極的に取り組み自分の能力や達成感を味わう一助となっている。又、敷地内の畑には四季折々の野菜や栗・イチジクなどの収穫が楽しみとなり利用者同士の話題やつながりを深めている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所には常駐の看護師が2名いるため、その実績、技術等をフルに生かした支援を利用者に提供したいと心を砕いている。利用者個々の性格・習慣・生活歴に配慮し、きめ細かな支援を心掛けている。持てる力を発揮したい人のために、又現在持っている力を出来るだけ失なう事が無いようとの考えから、清掃や調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ等の軽作業の参加、ラジオ・リハビリ体操、季節の行事、契り絵、手芸等日々の楽しみや生き甲斐が持てるような雰囲気作りにも力を注いでいる。日常の心身に関しては詳細に介護記録を行い落ちのしない引継ぎを行っている。特に健康管理は、嘱託医・かかりつけ医との医療連携をとっている。利用者の方を最後まで受け入れる終末期医療も取り入れ何時の時も「愛ある介護・誠実な介護」を実践している。